

市民活動推進助成事業(区政推進基金)寄附者のみなさまへ

みなさまの寄附金で大阪を元気にする 6事業を実施しました！

～平成28年度大阪市市民活動推進助成事業～

このたびは、市民活動推進助成事業(区政推進基金)へご寄附をいただき、ありがとうございました。
みなさまからいただいた寄附金を活用して、平成28年度は6事業を実施しました。
助成を受け、事業を実施している団体より、寄附者のみなさまへの報告が寄せられましたので、
ご紹介いたします。
今後も、市民活動の推進のため、みなさまのご理解・ご協力をお願いいたします。

～みなさまからこんなにたくさんの寄附金をいただきました～

平成27年4月1日～平成28年3月31日		平成28年4月1日～平成29年3月31日	
寄附金額	4,765,279円	寄附金額	5,404,368円
寄附件数	14件	寄附件数	12件

クリックひとつでできる市民活動！ クリック募金のご案内

平成21年10月より始まった、「大阪市 市民活動のためのクリック募金」が、平成29年7月よりリニューアルし、『大阪市市民活動総合ポータルサイト』上で再始動します！

クリック募金は、協賛企業のバナーを1回クリックするごとに3円が、協賛企業より寄附される仕組みです。

クリックした人に金銭的負担がなく、市民活動を応援することができます！ぜひ一度ご覧下さい。

【協賛企業一覧(掲載順・敬称略)】

大阪シティ信用金庫	大阪信用金庫	(株)アルファテック
富士ゼロックスシステムサービス(株)	センコー(株)	大阪市民共済生活協同組合
	リタワークス(株)	

大阪市市民活動総合ポータルサイトのご案内



市民活動に役立つ情報を一元的に発信するため、平成28年11月に開設しました。

個人・団体を問わず市民活動に役立つ情報総合サイトです！

<http://kyodo-portal.city.osaka.jp/>

事業名	居場所と学習支援事業		
団体名	特定非営利活動法人 あわじ寺子屋	助成額	1,000,000円

～ 助成事業を実施して～

【いつでも だれでも ようこそ】 あわじ寺子屋の合言葉です。2016年4月11日から、元大阪市立西淡路小学校の図書室で活動をしています。毎週月曜日～金曜日の午後5時～午後9時まで活動をしています。小学生は、午後7時まで。中学生・高校生は、午後7時～午後9時までです。一年間の来場者は、なんと4,501人でした。登録は71人です。

【地域の子どもは地域が育てる！】 私たちの地域では、今から63年前、高校2年生4人が、自分たちで「日之出少年会」を作り、後輩たちの世話を自主的にやってきました。この良き伝統が60数年間続いてきました。あわじ寺子屋はこの活動を受け継いでいます。

【多様な子どもたちが参加しています！】 外国にルーツのある子ども。被差別部落にルーツのある子ども。ひとり親家庭、生活保護世帯、生活困窮家庭の子ども。障がいのある子ども。発達に障害のある子ども。また、そうでない子ども。多様性と違いを大切にしています。

【活動内容は？】

居場所事業 学習支援事業 野菜作りと子ども企画応援事業 淡路本町商店街振興組合と連携した「長期休み中の子ども食堂」 子どもと保護者への教育・生活相談事業です。以上のことを実施するために、学校、行政、地域の諸団体、地域の企業と連携し、協働しています。

ある日の学習風景



熊本地震の募金活動
3万5000円をゆめ風基金に託しました。



さつまいもの収穫



卒業と進級を祝う会



共栄飯店での子ども食堂



事業名	地域で支えよう！外国にルーツをもつ子どもたちへの学習支援事業		
団体名	特定非営利活動法人多文化共生センター大阪	助成額	992,000円

～ 助成事業を実施して～

「宿題全然できへん。いっしょに宿題してくれへん？」

特定非営利活動法人多文化共生センター大阪は、大阪市西淀川区で実施している学習支援教室「きらきら」を通して、外国にルーツを持つ親子をサポートし、地域との交流・相互理解を通して互いに支え合う地域づくりを目指し活動しています。

【外国にルーツを持つ家庭の生活と学習のサポート】

主な活動として学習支援教室の実施と学習相談員の派遣などを行っています。週1回開催している学習支援教室は、外国にルーツを持つ小中学生の基礎学力の向上や日本語の習得を手助けし、子どもたちの放課後の居場所としても定着しています。一方、学習支援員の派遣活動では家庭訪問を通じて、学習のみならず生活全般に関して広く相談に乗ることで、外国人住民が抱える孤独感の解消を目指しています。

【他機関と協力し課題解決を図る】

大阪市西淀川区は全国的に見ても外国人住民の割合が高く、そのなかには不安定な雇用や母子家庭のための育児・教育に不安を抱えている家庭も少なくありません。私たちの活動を応援して下さる地元商店会や行政などの協力を得ながら、言葉や文化の違いから生まれる課題やニーズをより詳細に把握し、社会へ発信しつなげていくことが目標です。

言葉の壁などによって、学びやコミュニケーションの機会を失いがちな外国にルーツを持つ子どもたちは少なくありません。今回の大阪市市民活動推進助成事業のご支援を自信につなげ、今後も子どもや保護者を多角的にサポートしていきたいです。



学習支援教室:年間96回開催(イベント含む)
 受益者数 :外国にルーツをもつ小中学生
 年間登録者数30名
 延べ参加人数716名



チャリティーイベントへの参加:
 教室概要などの広報活動のブース出店や、寄付者を募った各国文化紹介等のイベントを開催した。

事業名	天神祭ごみゼロ大作戦		
団体名	特定非営利活動法人大阪府民環境会議	助成額	215,000円

～ 助成事業を実施して～

天神祭でのごみゼロに向けて、2016年7月24・25日に天神祭宵宮・本宮でのごみ調査、26日にごみの組成調査を59名のボランティアと一緒に行いました。天神祭2日間で出たゴミの量はなんと60トン。さらにそのほとんどが産業廃棄物として焼却処理されています。祭中もごみ箱からゴミがあふれ出て、道にごみが散乱している深刻な状態でした。

ごみの組成調査の結果では、分別回収を徹底することで再資源化可能なゴミが多いことが分かりました。また、参拝客の声や分別しない事への罪悪感を確認することが出来、地域の清掃ボランティアの拾い歩き実施エリアでは一定の成果があることが分かりました。

この調査結果を受けて、2017年度天神祭では一部エリアから分別ステーションを設置し、分別の呼びかけとリユース食器の導入を実施予定。さらにこの経験を得て、2018年度以降全エリアでのごみゼロ活動になるようにしたいと考えています。

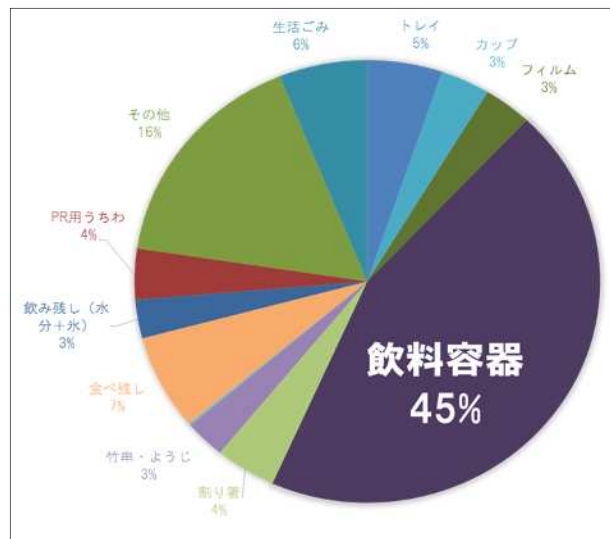
日本三大祭のひとつ、1000年の歴史を誇るこの天神祭をごみの出ないきれいな祭にするために今後とも活動してまいります。ご支援よろしくお願い致します。



ごみ箱からあふれ出したごみ山



道端に散乱したごみ



組成分析の結果 (重量比)

事業名	第4回子ども防災リーダー養成講座（一泊避難所体験事業）		
団体名	特定非営利活動法人ハートフレンド	助成額	45,000円

～ 助成事業を実施して～

小学生や中学生、一人ひとりが、災害時にどのように行動すればいいのか、日頃の備えはどのようにしておけばいいのかを、「防災フォーラム」や「子ども防災リーダー養成講座」（一泊避難所体験）を実施することで、子どもも大人も多くの「気づき」を「学び」にかえて、自分自身の命を守ることを目的として実施した。

くわづ防災フォーラムの開催。日時：平成28年10月29日（土曜日）
 子ども16名、大人23名が参加した。講師のお話を聞いてから「避難所での役割」をテーマにしたワークショップを実施。子ども達からは「お互いに思いやりをもち助け合っていきたい。」「子どもの発想に驚いた。」という感想が聞かれた。

子ども防災リーダー養成講座の実施。日時：平成28年11月5日・6日（土曜日・日曜日）
 第4回目の実施。小学生34名、中学生8名、高校生1名と大人30名、計73名が参加した。午後5時に小学校に避難してくるところから始まった。非常食を持ち寄り、一緒に食べたり、防災ずきんやランタンを作った。中学生が炊き出しをしてお味噌汁を作った。夜は、講堂の備蓄してある倉庫を見学した。就寝時は、ダンボール3枚と毛布1枚で寝床を工夫して作った。二日目は、消防士4名の指導で、怪我をした人の搬送を毛布や服を使って練習をした。最後に、一人ひとりが、自分の気づきを発表した。感想としては、「ダンボールは便利だが背中が痛かった。」「災害はいつ起きるかわからないので、家に帰ったら防災の準備をしたい。」「何があっても助け合う。」「消防士さんが、確認は大きな声でと言われたことが大切。」「初めて参加して不安だったけれど、とても楽しくて友達もいて安心して、とても勉強になった。」などの声があった。

今後も、第5回、第6回と継続して実施していき、「防災に強い町づくり」を子どもと大人が共に作っていきたい。



非常食を持ち寄り食べる



作った防災ずきんで集合！



寝床を作っています



重い！ 落とさないように！

事業名	ひとり親家庭のための個別就業支援基盤整備事業		
団体名	特定非営利活動法人女性と仕事研究所	助成額	550,000円

～ 助成事業を実施して～

ひとり親が、マンツーマンの個別指導により、確実にパソコン基本スキルを身につけることによって就労意欲と自信を取り戻す、「ひとり親（シングルマザー）の自立と能力開発」を事業の理念としました。また、再就職したいひとり親とひとり親を活かしたい企業のデータベース化による職業紹介基盤整備を行い、ひとり親のスムーズな再就職を支援することを目的としました。平成28年4月～平成29年3月まで、週1回10:00～17:00、合計43回、2名のスタッフで実施し、ひとり親45名が利用しました。アンケート結果満足度100%（スタッフへの感謝のコメント多数）、御礼の手紙とお菓子が届くなど、ひとり親の就業意欲を喚起できる事業ということを可視化できました。しかし、登録人材、登録企業ともに登録数が少ないことが今後の課題です。登録人材については、引き続き、関係機関と連携しながら、数ではなく、「寄り添い」「個別に丁寧に」就業を支援します。登録企業についても、数ではなく、当法人の理念「女性の能力を拓く」に共感していただいた企業を開拓していきます。皆さまからのご支援に心より感謝申し上げます。

アンケート結果

マンツーマン指導について 非常に良かった 100%
 働くことに前向きになれたか 前向きになった 100%



事業名	子ども、とりわけ親と暮らせない子どもたちの「生きる力」を育てる デザイン教育事業		
団体名	特定非営利活動法人 子どもデザイン教室	助成額	690,000円

～ 助成事業を実施して～

平成28年4月1日～平成29年3月31日までの1年間、子どもデザイン教室は、子ども、とりわけ親と暮らせない子どもたち（大阪府下の児童養護施設6施設・里親宅で暮らす子どもたち）にデザイン教育プログラム「遊びながら学ぶレッスン」を提供しました。これは、もの作りを通して、子どもたちの計画的に物事を進める力を育て、自己肯定感を育てるレッスンです。このレッスンでは2017年3月26日開催の商品展示販売会に向けて、葉書、ピンバッジ、クッキー、お人形などのキャラクターグッズを作りました。販売会では皆大きな声で販売をし、2時間で20万円もの売上を上げました。このお金は子どもたちの貯金になりました。レッスンは年間合計75人、延2,155人が参加し、子どもたちからは「おもしろくてみんな仲良しで楽しい」「どんなときでも聞いてくれる」「将来に役立つことが学べる」「理解できるまで説明してくれる」「子どもの案を大切にしてくれる」「学校の先生と比べて話しやすい」と高い評価をもらいました。子どもたちの年間の満足度も82.9%と高い結果になりました。

子どもデザイン教室は2017年度で丸10年、10周年を機にレッスンスタイルを新たに4つのクラスに分けます。この新カリキュラムでは、子どもの成長に合わせ、3歳から22歳まで、お絵かき工作から自立支援まで繋がる、新レッスンを展開します。名付けて「自分デザイナーを育てるレッスン」。自分の人生が設計できる人を育てます。教室の将来構想は、児童養護施設や里親宅を巣立った若者が、やがて子どもデザイン教室で働き、さらに次の子どもを育てる、そんな地域の小さな福祉拠点を作ることです。これからの子どもデザイン教室にご期待ください。なお、ご寄付頂いた方々はクリスマス会やレッスン見学に参加できます。ぜひ、遊びにいらしてください。

